詩集星人

～子ども時代

miomio

目次

はじめに
miomio です。 2

子ども時代
おかあさん 4
ちきゅう 4
つくえ 5
えんぴつ 5
おふろ 5
手 6
せんたくき 6
まど 7
かみのけ 7
せんせい 8
おにんぎょう 8
かだん 8
はり 9
いと 9
がっこう 10
お正月 10
ランドセル 11
目 11
こくばん 11
おとうと 12
ようふく 12
かぜ 13
にっき 13
きゅうしょく 14
きょうはどんなひ 14
きんぎょ 14
みんな 15
としょのしょうかい 15

かえりみち 16
がくどう 16
一りん車 17
きせつ春 17
きせつ夏 18
おたんじょうび 18
きせつ秋 19
わたし 19
きせつ冬 20
いいのになぁ 20
見たことあるわ 21
みんな友だち 21
しょうりょうバッタとトノさまバッタ 22
わらっていよう 23
がんばる気持ち 23
なにがうつる 24
ちいさな芽 24
人のちがい 25
花のアーチ 25
いますぐそばに 26
にじ 26
ぼくのおかあさん 27
幸せ 28
地球 29
元気 29
生きてるって 30
思い込み 31
悩み事 31
空をとびたい 32
ちょっと一息 32
洗たく 33
自分 34
思うこと 34
日々 35
なにもかわらぬ 36
サヨナラ 36
4 羽の鳴き声 37

ティーン移行期間
縫い目 40

世界 40
かたくり粉 41
依存 42
さみしい 43
群 44
大人 45

詩集星人

Picture 48
大丈夫 48
自信 49
冷凍解凍再冷凍再解凍 50
変わらないものってなんだろう 50
人間のサカイメ 51
空虚 51
成長 52
無題 53
間借り 54
笑うとは 54
すっぴん 55
嘘 56
謝罪 57
優しさの発端 57
お日さま 58
許可 59
昇華 59
ヒリヒリ 60
本当に大切に人を想った時 60
辛いよう 61
孫の手 62
フレッシュ 62
龍の子供 63
おれ 64
残像 65
こどく 65
くらくら 66
ゆたんぽ 67

私との再会

私との再会 70

ウタワセ
こうもり 72
約束 73

おわりに
未来を探しています 76

はじめに

miomio です。

　私は、作曲をしたり詩を書いたりということがやめようと思ってもやめられません。そして、それを自分だけのものにしておくということが苦手です。鏡の中の彼女は、一体今なにを考えているのだろう。私が、ある日突然この世からいなくなるということを想像すると、今自分がとっている行動が一体何のためにあるのだろうか？ 今日と明日は続いているのだろうか。

そんなことが気になって、色々な場所に想いや考えを残しています。

見つけてくださった方。本当にありがとうございます。

子ども時代

おかあさん

おかあさん

おかあさんとよぶ人おおい？
わたしはママってよぶ
けれどね？
ママおしごとたいへんそう
ママだいすき

ちきゅう

ちきゅう

ちきゅうはどうしていきができるの？
うちゅうはどうしてからだがうくのにちきゅうはうかないの？
ちきゅうにはどうしていっぱいの人がいるのだろう？
あっ
またあたらしいいのちがたんじょうするからかなあ

つくえ

つくえ

つくえさんのおくちひとつ
つくえのおくちは
なんこだろう？
ふしぎだぁ

えんぴつ

えんぴつ

えんぴつあたまの
さきがとがっています
くろのうすい色で字を
書きます。
この詩もえんぴつでかきました

おふろ

おふろ

あったかいな
あしからあたままで
ぽっかぽか
ゆざめしないように
はやくパジャマにきがえよう

手

手

わたしのまほうの手
なんでかというとね？　・・・
詩がすらすらかけちゃうもん

せんたくき

せんたくき

せんたくきって
むかしの人がいてみたら

ずるいというだろうな
おおきなおくちにふりかけいれて
がーとおとをたてきたないのをあらいます。

まど

まど

まどってどうしてとうめいなの？
カーテンなかったら
へやがまるみえ
でも・・・？
そとのようすがよくわかっていいかもね！

かみのけ

かみの毛

きみながいかみのけすき？
それともみじかいのすき？

せんせい

せんせい

せんせいってなんでもできてすごいね
たとえばなわとびマットあそび
てつぼうさんすう
こくごずこう生活どうとく
すごいなぁ

おにんぎょう

おにんぎょう

おにんぎょうとかいわしたいなぁ
おにんぎょうはよる
うごいているのかなぁ
生きていたらなんとおもってるのかなぁ

かだん

かだん

レンガでできています
きれいな花をさかせます
みみずもいっぱいねています

はり

はり

はりはいたずら
ぬいものしてると
にんげんのゆびさす
でもまじめ

いと

いと

いとははりのおともさん
みじかいまっくらとんねるくぐります。

がっこう

がっこう

がっこうはいろんなひとがくる
いろんなおべんきょうする
むずかしい
がっこうたのしい

お正月

お正月

お正月
まず
かがみもちもかざります
それからおぞうに
つくってたべます
おせちもみんなで
おいしくたべます

ランドセル

ランドセル

いつもにんげんの
せなかにおぶさって
がっこうへいきます

目

目

めのなかに
だれがうつってる
めはなにいろ
ひとみはどのくらいのおおきさ？

こくばん

こくばん

いつもじをかかれる
けされる
かおあらっても
きたないしろい
かお

おとうと

おとうと

ねているときと
いっしょうけんめいのとき
かわいい
けんかするとこわい
はずかしがりやさんで
かわいいわたしのおとうと

ようふく

ようふく

ようふく

ひとのからだにひっついて
いきてるようにうごきます

かぜ

かぜ

ピューヒューとなってます
風がいたずらしています
はっぱがまいごになっちゃいます。

にっき

にっき

まいにちにっきを
かきます
おもいでになります
でもたいへんです

きゅうしょく

きゅうしょく

きゅうしょくとってもおいしい
のこしたくない
のこしたひともったいない

きょうはどんなひ

きょうはどんなひ

きょうはどんなひ
とってもいいひ
あしたはいいひ
きっといいひ

きんぎょ

きんぎょ

ほかのさかなは
うみにいるのに
きんぎょとこいは
うみではいきられ
ないの
ふしぎだなぁ

みんな

みんな
みんなみんなみんなって
だれとだれとだあれ？
学校の二組がみんな
それともせかいじゅうの人がみんな？

としょのしょうかい

としょのしょうかい

きゅうしょくのとしょの

しょうかいほうそう
６年生５年生がしょうかいをする
いいところでこのつづきはとしょしつでよんでくださいになるずるいよ

かえりみち

かえりみち

かえりみち
いろんなおはながさいています
いろんな色のくるまがとおります
いろんなとりがないています。

がくどう

がくどう

がくどうではいろんなことをおしえてくれます
いろんなあそびもできるようになって楽しいです
三年生もはいれるといいです

一りん車

一りん車

一りん車ばらんす
むずかしい
いちりんしゃ
おもしろい
一りん車
の・れ・る・

きせつ春

きせつ春

春、きれいな花が
いっぱいさきます
なかでもチューリップが
もてもてです

きせつ夏

きせつ夏

夏みどりのはっぱにかこまれてひかげがたくさんでき
ことりがひとやすみしています
きもちよさそうです

おたんじょうび

おたんじょうび

おたんじょうび
ひとつおおきくなる
うれしい
プレゼント
なに
ケーキのろうそくふっーっ

きせつ秋

きせつ秋

秋になりました
はっぱが秋色になりました
だんだんおちてきました
おちばがふじ山になっていました。
秋がすっかりふかまったよ

わたし

わたし

わたしからわたしをみたら
miomio
おかあさんからわたしをみたら
むすめ
おばあちゃんからわたしをみたらまご
おみせの人からわたしをみたら
おきゃくさん

きせつ冬

きせつ冬

冬になった
木がはげぼうず
ゆきがふるのがたのしみだ

平成十五年～７歳～

いいのになぁ

いいのになぁ

まっくらなこの夜も、
ぼくのかいちゅうでんとうで
黒いお空のてんじょうも
明るくなったら
いいのになぁ

この自然のじしんや台風も
人にひがいが
なければ
いいのになぁ

人間ずっと生きてれば
いいのになぁ

見たことあるわ

見たことあるわ

見たことあるわ、しってるわ
だれかのパパでしょ
私のパパよ
見たことあるわ、しってるわ
しらないわけないじゃない。
だって私のパパだもの。
見たことあるわ
しってるわ
育ててくれてありがとう。

みんな友だち

みんな友だち

みんなともだち
目の見えない人も

耳が聞こえない人も
しょうがいのある人も
みんなおなじ人げん
だからみんな友だち
わるいことをするおとなも
子どものころはやさしい心が
あっただろう・・・
子どものときに友だち
そしていつかはせかいじゅうの人が友だちになり
せかいは一つの心にまとまるだろう。

しょうりょうバッタとトノさまバッタ

しょうりょうバッタとトノさまバッタ

とのさまばったはえらいバッタだが
しょうりょうばったはふつうのバッタ。
でもバッタたちのかいわでは
トノさまバッタはずるいな
といっているだろう
でも・・・バッタはバッタで食べるものもしゅるいもちがっていてもみんな仲まですものね！

わらっていよう

わらっていよう

わらっている人は心のすてきな人
わらって生きていると
いろいろないいことがある
おこっていると
わらった顔になれなくなる
わらうかどにはふくきたる
えがおでいこう

がんばる気持ち

がんばる気もち

ちょうせんしてみよう
その心がスタートだ
ざせつはだめだ
まえむきに

なにがうつる

なにがうつる

緑のきれいな町の中
あなたのひとみになにがうつる。
とおくはなれた　青い空
きれいなひとみにうつりそう・・・
緑のきれいな町の中
みんなのひとみに
ゆう気がうつる

ちいさな芽

ちいさな芽

そだてていたちいさな芽
どんどんそだっていくのを見て
思った・・・
この芽せいちょうしたなぁ
と、おもっていた日
つぎの日見たら気もちにこたえてくれたように花がさいた。

人のちがい

人のちがい

人にはいろんな顔がある。
声もちがう
いろいろな人がいる
かみの毛がみじかいのがすきな人や
ながいのがすきな人もいる
すきな色をきいてもみんないろいろ
とってもいろいろな人がいる

花のアーチ

花のアーチ

花のきれいなアーチ
わたしの心でつくってる
ぼくの体の中でさいている
あなたはどんな日
心のアーチがでますか？
わたしはいい　きれいなくうきを
すったときだわ。
きみ、どんなとき体の中で花のアーチができるんですか？
ぼくはいきいきしたみどりのはっぱをみたときかな？

あなたも心にはなをさかせましょう！
きみも体の中にアーチをつくろう！

いますぐそばに

いますぐそばに

いますぐそばに
だれかがいるよ
だれかがいるから
わたしもいるよ
わたしがいるから
みちがあるよ
みちがあるから
いえがあるよ
いえがあるから
みんながいるよ
みんながいるから
かぞくがいるよ
かぞくがあるから
せかいがあるよ
せかいがあるから
しあわせいっぱい

にじ

にじ

にじ７色のにじ
わたしはずっと
みていたい
ぼくはこの手で
さわってみたい
みていたいさわってみたい
でも
そんなねがいは
つうじない
にじきえないで
いちにちじゅう
でていてほしい
ぼくとわたしはおいかける
まってまってにじきえちゃだめ！

ぼくのおかあさん

ぼくのおかあさん

おかあさんはぼくを
うんでくれた人
でも
ぼくにはおかあさんが
二人いる
ぼくのうまれたびょういんは
ぼくの一つ目のおかあさん
でもほんとうのおかあさんは
ぼくをそだててくれる
おかあさん

平成十六年

幸せ

幸せ

幸せってなんだとおもう？
お金もちで美人さんで
おいしいものばっか
たべてる人が幸せ。

いいくらしをしていて
スタイルのいい人が
幸せ。

いろんな幸せがあるけれど
やっぱり一番の幸せは

家族みんなが健康で
毎日楽しくすごすこと。

地球

地球

地球。
地球。
地。
球。
回る。
回る。
回。
る。
命。
命。
増える。
増。
える。

元気

元気

元気の元は
「もと」

というじ

元気の気は
「気もち」
の気

元の気もちが
ととのって
はじめて元気が
とどいてくる。

生きてるって

生きてるって

「すばらしい」のために
生きてるって

「悲しみ」のために
生きてるって

「楽しみ」のために
生きてるって

「みらい」のために
生きてるって。

思い込み

思いこみ

自分がかわいそうとか、
あの子はひどい子とか、
これは良いこととか、
誰が決めたの？

悩み事

悩み事

どんなに小さなことでも
とってもうれしい人はよろこぶ。

そんなの日常だって、
鼻で笑う人もいる。

うれしいことなんて
人によってちがうのに。

空をとびたい

空をとびたい

ぼくは自由にあの大空を
とんでゆきたい
だれもとめないでくれる
自由な空へ
ぼくはとんでゆく
ゆめのなかで
ぼくたち人間
だからはねはないが
いつか大空にとびたつ
日がくる
かならず・・・

ちょっと一息

ちょっと一息

あめの日っていいよね
心のよごれながすもの
あめの日っていいよね
いやな思い出
流すもの

平成十七年〜十八年

洗たく

洗たく

大好きな柄のタオルがある。
一番、お気にいりなんだ。
いいにおいがする。

でも、このタオルを洗たくしないと
いけなくなった。

洗ったら、
なくなっちゃう。

ぼくは、めいいっぱい
タオルをだきしめた。

洗ってないタオルを
心の中でかわかした。

自分

自分

みんなが花笛、ふいてる時に
桜、みてたっていいじゃない。
みんながけむしをいやがってる時、
こかげで休んだっていいじゃない。
みんながかれ葉を集めてる時、
木の実、探していいじゃない。
みんなが、雪合戦してる時、
ふる雪ながめていいじゃない。
だってあなたは、あなたなんだし、
自分は自分なんだから。

思うこと

思うこと

ある人に言われて、私はふと考える。
「自分は、自分なんだ。」
だれのものでもない。
どんな楽しい事があったって。
どんなつらい事があったって。
「私は私。なんだから。」

あんなに悲しい時だって。
こんなに苦しい事だって。
「感じているのは私なんだ。」
だれになんて言われようが、
私は自分を信じているから。
たよりになるのは自分だから。
私のみかたは私だから。
変わらなくてもいいんだよね。
でも、ときには、たよれる人も、
自分だけじゃないんだよ。

～十一歳　本を読んで～

日々

日々

あの日々が
忘れられない
あの日々を
次の日にわたしていいのか？
次の日は
もらってくれるだろうか？
あの日々を
わたしてはいけないのじゃないか？
次の日は
もらいたくないのじゃないか・
あの日次の日次の日あの日
日々より日日がいい。
日日より、

ひびがいい。

なにもかわらぬ

なにもかわらぬ

なにもかわらぬ
このへやで
なにもかわらぬ
はなうたが
なにもかわらぬ
この町で
なにもかわらず
とんでいる
なにかかわっているだろうか？
なにもかわらず
かわらないで。。。

サヨナラ

サヨナラ

帰る時間じゃないのに。
まだ、充分時間があるよ。
もう帰っちゃうんだ。
もっと話したかったのに。
もっと遊びたかったのに。

サヨナラの時間が来たんだ。

4 羽の鳴き声

４羽の鳴き声

青、黄、むらさき、みどり色
今日もかわいい
うたごえが
心の中にひびいてる

いつも毎日
心の中に
かわいい
４羽の鳴き声が
頭の中にひびいてる

平成十九年

ティーン移行期間

縫い目

縫い目

外ではいつも笑顔でいたい
笑ったり泣いたり心の中は忙しい
家に帰るとぐちゃぐちゃの顔の私
絡まりほつれ破けた痕の私

どうにか直してまた朝が来て
日に日に縫い目が増えてゆく

世界

世界

僕の世界はマッチ箱
小さい摩擦ですぐに火がつく
良し悪し関係なく燃える
消火する前に消えてなくなってしまう

世界の中身が決まっていて
一つずつ燃えて消えていくんだ
なくなった時に僕も死ぬ

かたくり粉

かたくり粉
あんかけを作りたい
幸せ あんかけ
良いことはかたくり粉
嫌なことは水

役に立ちたい
でも立てない
ふくれあがる感情
意地悪なベーキングパウダー

様々な誘惑
逃げてみるけど
ついてくる欲望
甘いチョコレート

とろ とろ とろ とろ
とろみをつけて
大人になった証
いくつもの火傷

混ぜ合わす日常
指先の魔法
ロマンチストでいたい
先生はお酒

かげんが難しいのさ
幸せになるには
溶いて問いて解いて

それらは謎

あんかけを作りたい
幸せ あんかけ
かける ふわ ふわ 卵は
みんなの笑顔

食べる笑顔のぼくらは
いつでも あんかけ

依存

依存

実は
あなたに会いたいのじゃなくて
あなたが会いたがっているの

あなたはそれによって生きているみたいだけど
それはあなたがいなくても生きていけるの

実は
あなたを好きなのではなくて
あなたが好きなの

あなたは助けているつもりでしょう
ただ助けられているだけなのに

実は
あなたって勘違いしているだけだったりして

さみしい

さみしい

あたしがさみしいと
空がさみしい

鳥は
迷子になったのかな

あたしがさみしいと
音がさみしい

風は
迷子になったんだよ

冷たくて
優しくなくて

あたしがさみしいと
・・・...
あたしがさみしくなる

群

群

隔たり　隔たり
見つからない

青

憧れのまなざし
涙で洗い流す

沈んで　沈んで
濃くなっていく

青

差し込む光
水面へ戻っていく

何も見えない
だって海は目に沁みるでしょう

カラフルな鱗はおそろい
あたしの制服もおそろい
この群から逃げ出した時
あたしはどうなってしまうの？

多彩な未来を目指しているみたいに
みせかけたことを教えないでよ
さまざまな道があるよって
結局ひとまとめにして
凸凹ができないようにする

待ち伏せの大きなネットに
早く気づいて

行きたい方へ
バラバラでいいから
泳いで

泳いで

泳いで

大人

大人

今しかできないことがあったら
すぐにとりかかろうと思う
僕は間違っている？
それでも自分を信じたい
大人になる　僕は

道徳や金や世間は難しい
時に随分と課題を僕に押しつける
真っすぐ前を前を見つめる
生きている本当の意味は
僕も未だわからない

いつしか悲しいことがあっても
涙が溢れてこなくなった
僕が強くなったから？
それとも心が鈍くなったから？

大人になる　僕は

草や木や花のように美しく
内に水分をたっぷり含み根は強く
真っすぐ上を上を目指す
自然の営みのように
僕は支えられている

十代後半

詩集星人

Picture

Picture

一瞬を切り取って
想い出は生きている
前を向いて
歩いて行こう
心のスキマは
タイムスリップで埋めて
いつでも
油断はしないぞ
Say　cheese!

大丈夫

大丈夫

わからないから言う
きっと　大丈夫だよ
人はいっぱい考えて
わかんないことがいっぱいって
わかるものなんだよ

みんな
わからないなりに
幸せの意味をわかっている
君も、わからないなりに
自分のことをわかっている
だから、大丈夫だよ
なんて　君に言えるのさ

自信

自信

誰が
じゃなくて
僕が

あの人が
じゃなくて
僕が

みんなが
じゃなくて
僕が

僕が
一生懸命
僕を

見てる
愛す
それでいい。

冷凍解凍再冷凍再解凍

冷凍解凍再冷凍再解凍

辛い　辛い　辛い
溶けた心で泣いていよう

泣く　泣く　泣く
冷えた心は氷のよう

笑う　笑う　笑う
凍った心を　さあ溶かそう

生きる　生きる　生きる
変わりつつある　我心

変わらないものってなんだろう

変わらないものってなんだろう

変わらないものって何だろう
空は変わる
花は枯れる

食物は腐る
物は古くなる
年をとる
髪が伸びる
爪が伸びる
ほこりはたまる

変わらないものってなんだろう

あの人もこの人も
昨日も今日も生きていて
同じ顔で笑って

私を知っててくれるだろうか

人間のサカイメ

人間のサカイメ

「どうしたの？」って自分から心配するロボットがいたら、
そいつはロボットじゃなくって、もう、人間だ。
冬に、夏野菜がなったら、
そいつは野菜じゃなくって、もう、人間だ。

空虚

空虚

花なら　摘んでもらえるのに
花なら　飾ってもらえるのに
花なら　種を飛ばすのに
花なら　枯れてしまうのに

ああ　虚しい
　ああ　空しい

春が来ても　まだ咲かない
冬が来ても　まだ枯れない

成長

成長

答えは全部わかってた
生まれた時からわかってた
人間として存在した意味も
また明日が来る意味も

どこに置いてきたのだろう
どこに忘れてきたのだろう

年をとればとるほど
世界になじむと思っていた
年をとればとるほど
むなしいくらい浮き彫りになった
十年前の自分になぐさめられているようじゃ
ろくに明日の手も抜けないな

無題

無題

確かに考えると浮かばない
悲しくなって浮かぶ
怒り狂って浮かぶ
切ない喜びに浮かぶ

無題

いろんな穴が開いているようで
体は密封されているんだ
つま先から這い上がってくる怒りと
頭から流れ落ちる悲しみ

無題

美しい言葉をかき連ねるほうが
うんざりしないですむからだ
星が光っているとか
花がきれいとか

間借り

間借り

時間が流れる
針が進む
お腹がすく
眠くなる

寝る　起きる
昨日のことを覚えている
昔のことを思い出す
明日のことを想ってみる

私がいる
宇宙がある
今まで生きてきて
たぶん明日も生きている

いつもそばにいる人が
今日もちゃんと横にいる

私は今日も私の身体に
居心地悪く住んでいる

笑うとは

笑うとは

人は本当に苦しい時、笑う
幸せで幸せでしかたないっていうのは
この世で一番こわいもの
笑顔は役に立つ
色々な気持ちを
隠すことができる
自分を誤魔化すこともできる
人をだますこともできる
笑顔はすごい

すっぴん

すっぴん

本当のわたしを知ってほしい。
どうしてわたしをちゃんとみてくれないのよ？
あなたに聞く。
あの子に聞く。
みんな困った顔をする。
みんな何も言ってくれない。
とうとう
「ねえ、本当のわたしどうしてなのよ？」
本当のわたしに尋ねる。
返事がない。
しばらく考えこんで、本当のわたしはぽつりと言った。
「本当のわたしを知ってほしい。
どうしてわたしをちゃんとみてくれないのよ？」

嘘

嘘

嘘をつく人はすごい。

心臓はドキドキする準備をする。

おでこは冷や汗を急いで作る。

目玉はさあ動こうと気合を入れる。

でも、嘘をつく人はすごい。

心臓にも、おでこにも、目玉にも、

「ごめんごめん、嘘をつくなんて
　嘘なんだ。慌てずゆっくり休んでよ。」

心臓も、おでこも、目玉も、

「なあんだ。嘘だったのかー。」

嘘をつく人はすごい。
そして今日も、安心して嘘をつく。

謝罪

謝罪

多くの人の大切な時間を、
（とくに両親）
私のいたらない部分によって
もったいない使い方をさせてしまった。

今になって、とても、とても、

謝りたい気分だ。

でも、もう、謝罪を聞いてもらう時間も申し訳ない。
じゃあ、私はこれからどうする？

優しさの発端

優しさの発端

楽しい事の裏には、苦しいことがある。
苦しい事の裏には、楽しいことがある。
いい日の裏には、わるい日がある。
そうじゃなくて、
毎日の中には、いいこともわるいこともある。

笑顔でいても、何故か悲しみが見えてくる。
悲しんでいても、幸せをどこかで予感している。
頑張り続けることができても、頑張れなくなる時が必ず来る。
さて、はじめようかと立ち上がる。
うずくまって動けない自分が、頭の隅で見ている。
最初はそういうものだって、知らなかった。
最近、ああそういうことか。と確信した。
あの人の笑顔が、泣いて見える。
笑い返した私の顔も、おそらく泣いて見えている。
あの人は、そういう人であろう。

お日さま

お日さま

ねているあいだに、
雨が空気をひやした。
「きょうから、９月だよ。」
わすれたころに、
また夏をおもいだして、
お日さまはうんと燃えたりする。
だけど、やっぱりさみしくなって、
つめたくつめたく
お日さまは力をふういんする。
らいねん、また。
やっぱり、おもいだしたように、
幾年もの、いろんな叫びをきいてほしくて、
あつくあつく
お日さまは力をときはなつ。
空が今日かくしているのは、
お日さまの７こじゃたりない

愛と想い。

許可

許可

私はよいと言って欲しいのだ。
誰にだろう？
慰めでも、
優しさでもなく、
よいと言って欲しいのだ。

昇華

昇華

「くやしい」と
絵を描いた。
その絵は、
部屋にぽつんと飾ってある。
私の気持はぽつんと部屋に
飾られた。

絵をみるのは私だけ。

ヒリヒリ

ヒリヒリ

目から、口から飛び出していこうとする
湯気を食い止めた。
心臓が煮えてしまった。

自分の中で起きた熱が、

ヒリヒリ　ヒリヒリ。
ヒリヒリ　ヒリヒリ。

唐辛子なんて目じゃない。

ヒリヒリ　ヒリヒリ。
ヒリヒリ　ヒリヒリ。

本当に大切に人を想った時

本当に大切に人を想った時

本当に大切に人を想った時
笑っていようと心に誓う

泣いて縋って甘えて泣いて
吐き出して疲れて眠くなって
朝が来て
今日の空は晴れていて、青くてきれいだって。
まだ生きていて良かったなって。

本当に伝えたいときは、
ただ
笑ってそばにいて
終わりを告げる夜の空に
君の憂いるその心の
滲み出た黒い痛みの血

ゆっくりゆっくり宇宙に混じり
目を凝らしたってもう見えない。

どうか君が　また明日
空の青さに気づきますように。

辛いよう

辛いよう

辛いよう
何が辛いって
自分の中で
自分が暴れているから
辛いんだ。

辛いよう
お前を大切におもっている
強くなれ
だから手は
かせないの。

孫の手

孫の手

なあんにも
きれいなことは
言えんのだ
ガシッガシッガシッ
ぐうだらぐうだらぐうだら
働けよう働けよう
あんたはなんになりたいんだあ
ガシッガシッガシッ
暇ならあおれの背中でもかけ
ガシッガシッガシッ

フレッシュ

フレッシュ

美味しいご飯が食べられる幸せ。
「好き」を追いかけ、つかまえる幸せ。
鏡の中の私はニタニタと笑っている。
きっとあなたの瞳にうつる、私も
嬉しそうに笑っている。
新しいことにいつでも、
心はトキメク。
私がどんどん歳をとり、
からだが古くなったとしても、
街頭に負けない星を見つけて、
フレッシュな気持ちで光っていたい。
フレッシュな気持ちで生きていたい。

龍の子供

龍の子供

遠くの空を見た
右腕を伸ばしたその先に
一匹の龍がいた

悲しみの雲を吸って
育った龍が子を産んだ
灰色のベッドの上

遠くの空から視線を移し
腿に置いた手のひらを見た

きつく拳を作る

必死にこじ開けようとする

小さな龍がいた
悲しみの空から
降ってきた龍の子供

もう一度空を見ると
牛乳瓶の底を覗いているみたいだった

おれ

おれ

そんなにさ、
わがままばかり言うから、
おれ、こんなにがまんしないといけない。

そんなにさ、
おれ、強くないんだよ。
勘弁してお願い。

君のことは絶対に忘れないし、
大事に思っている。

だから、
あんまりおれを困らせないでね。

残像

残像

目を閉じると
東京の夜景がうつる
ビルの灯り　信号機
ずっと目を瞑っていると
一瞬何にも見えなくなって

……

さっきから押し黙った

君の顔が浮かぶ

こどく

こどく

いっぱい幸せ
いっぱい良いこと
いっぱい嬉しいとこどく

こんなに楽しいこと

こんなに素てきなこと
明日も　明後日も
その次の日も　また次の日も
こんな幸せなことって
つづくのかな

たくさんの人に囲まれるとこどく

ありがとうって感謝されるとこどく

朝、目が覚めて晴れた空はこどく

ひとりじゃないんだよって君は言うけれど
ひとりじゃないってわかっていても
星がきれいだとこどくになるの

くらくら

くらくら

ようするに
ぼんやりとした世界をみていたい

誰かが間違いを指摘したとしても
今の世の中、素直な人なんていないよ

目の前の空間は吸い込まれるように消えた

だいたい、丸い地球にまっすぐ立っているのがおかしいんだ

天井にしがみついている君の顔は青ざめていて

なんで赤くならないの？ って聞いたほうが良いかい？

ようするに
僕は不透明な世界をみていたい
くらくらして、ぐるぐるして
渦の中で酔っていたい

ゆたんぽ

ゆたんぽ

大人は弱い。
弱いくせに、
誰も守ってくれない。
なのに、
守るものは多い。
だから当然、
強く強く、
平気なふりを
しなくてはならない。

子どもは生ぬるい。
大人は、火傷するくらい
あつい。
冬場のゆたんぽみたいなものだ。
何かに包まないといられないし、
翌朝にはぬるくて、
夜には冷たくなっている。

自分の体温を保つために、
面倒をみてやるのは自分しかいなくて、

毎日のことなのに、毎回忘れていて、
裸足で台所の床に立ち、やかんに湯を沸かす。
シンクにゆたんぽの中身をぶちまける。
沸騰しかけの湯を、
コポコポ　コポコポと注ぐ。
プラスチックの溶ける臭いがする。
フリースの巾着に入れる。
もう一回、フリースの巾着に入れる。
床から足裏に這い上がる冷たさが、
抱えたゆたんぽに追いやられていく。

大人は弱い。
弱いくせに
弱いことが悲しい。

ずっと温度を保つ。

熱いだけの湯に、

それはできないのである。

成人後

私との再会

私との再会

私との再会

たくさんの瞬間を生きていたわたしが、切りとられて会いに来る。何か葛藤していて、どうにかきっと解決したから、今があるわけなんだけれど、その、たどりついたハッピーな結末は、既に疲労しきっているから味わえなくて、それを知りたい、過去で息をしているわたしが、現在にいる全く違うことで悩んでいるわたしに聞きに来る。わたしは、その子に安心させるように、結果とその後の幸せな話をしてあげる。ついでに、今更になってわからなくなってしまった自分のことを、誰かに相談するみたいにその子に聞く。何故か、とっても喜んでくれるのが不思議で、なんだ心がむずがゆくなったわたしはついお礼を口走る。

全身が若返ったような気がする。

その子は、すっきりしたような顔をして、とくに別れを告げることなく、わたしの記憶に帰っていくのだ。

ウタワセ

こうもり

こうもり

短い前髪　吹き上げる風に
少し苛立ちを覚えて
沈みかけた太陽
自転車のライト
たったひとりのこうもり

帰る場所は決まっているのに
ピタリとはまる鍵も持っているのに
ペダルをこぐ右足が前に進まないの
行き交う人々の嫌味な笑顔

幸せなふりならできる
嬉しそうな笑い声だって
弱音を吐きたくないから
真っすぐ立っていたいから
本当は全部逆さまなんでしょ
ひとりで飛んだって
さみしくないよ
なんて嘘つきだよ
ひとりで飛んだってさみしくない
訳ないでしょう

赤い夕陽　遠くに落ちて
にごった鐘の音を聞いた
手をつなぐ人々　見つめあう人々
たったひとりのこうもり

名前もちゃんとあるんだよ
家族も待っていてくれるのに
曖昧な記憶の隅に
さみしそうなあたしの姿

幸せなふりならできる
楽しそうな笑い声だって
弱音を吐きたくないから
真っすぐ立っていたいから
本当は全部逆さまなんでしょ
ひとりで飛んだってさみしくないよ
なんて嘘つきだよ
ひとりで飛んだってさみしくない
訳ないでしょう

約束

約束

落ち込んでいた
君の背中に
そっと添えた右手
その手におさまりそうなくらい
小さくおびえた君

いなくなるなんて言わないで
辛くても人は前を向かないと
ひとつ僕と約束しよう

僕の小指
君のハートに

突き刺さって痛むかも
ごめんね

流れ星はみたことない
ひこうき雲しかみたことない
君の笑顔がそんな珍しいものに
なるのは耐えきれない

恐竜はみたことない
インド象しかみたことない
君の笑顔がそんな古いものに
なるのは耐えきれない

ハリセンボンの罰はないけれど
絶対やぶっちゃダメだよ

幸せな君をみていたい
そして僕はそばにいたい
君の笑顔が日常にあふれ
笑いが絶えず切れない

幸せな君をみていたい
そして僕はそばにいたい
君の笑顔が僕のたからもの
小指にこめた一生のお願い

おわりに

未来を探しています

　長い間お付き合いしていただき、本当にありがとうございました。
もし、ここまで読んでくださった方がいらっしゃるのならば、私がここまで生きてきたのも本当なのでしょうね。毎朝起きるたびに今日が昨日の続きなのか不安になりますが、こうやって詩や文が残っているということは、私も生きてきたということですね。そして、このおわりにを書いているということは、まだ生きているのでしょうね。人生はとても不思議なのですね。この先も、新しい発想や思考に出会えるのを楽しみに、創作を続けていきたいと思います。最後までありがとうございました。

詩集星人

著　　miomio

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社